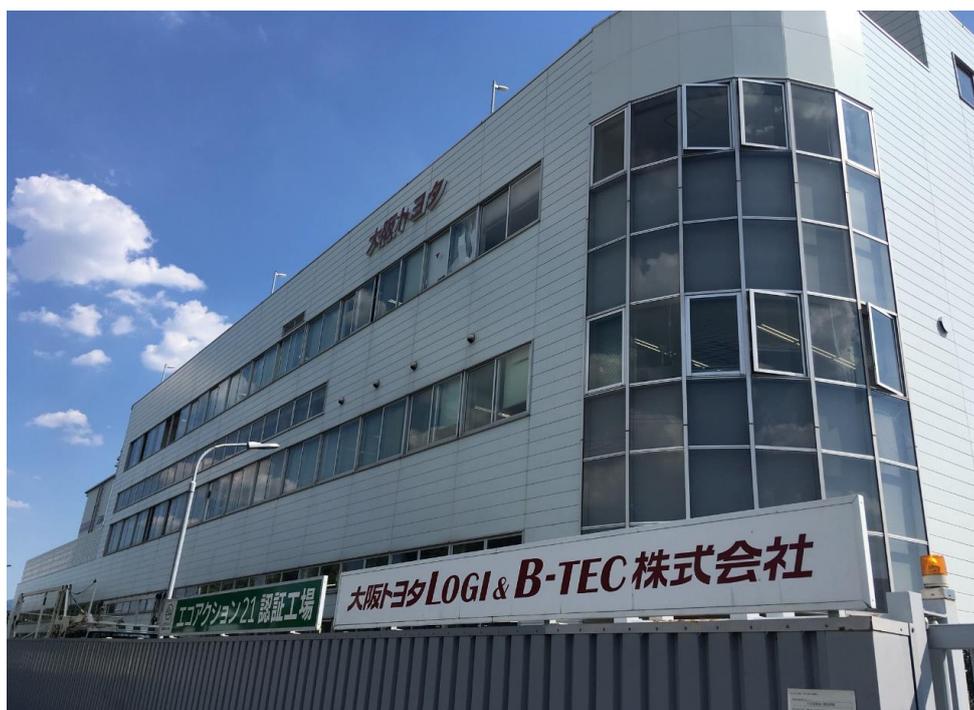


大阪トヨタLOGI&B-TEC株式会社

2019年度 環境経営レポート

(対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日)



【 目 次 】

- P1：表紙
- P2：環境方針
- P3：組織の概要、認証・登録の対象組織・活動
- P4：環境推進委員会組織図
- P5：役割・責任権限
- P6：主な環境負荷の実績、環境目標及びその他の実績
- P7：環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組
- P8：〃
：環境関連法規等の遵守状況の評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- P9：緊急事態対応訓練
- P10：代表者による全体の評価と見直し
- P11：環境活動等の紹介

作成日：2020年5月25日

大阪トヨタ LOGI&B-TEC 株式会社 環境経営方針

基本理念

当社は大阪トヨタグループの一員として、安全と環境保全を、経営の最重要課題と位置づけ、自動車整備（新車点検・U-car 商品化）、自動車用品取付、輸送業務事業を常に作業改善を通して進化させ、環境変化に適応し地域に安全・安心を提供できる、企業を目指す。

基本方針

1. 事業活動が環境に与える影響を正しく認識し、環境方針を理解し、環境目的・目標を定めて、全従業員で継続的な改善活動に取り組む。
2. 環境に関する法律・規則・条例、並びにその他の要求事項として当社が同意した地域の取決めを遵守し、環境保全レベルの向上を図る。
3. 事業活動の全ての領域で、リサイクルの促進、水使用量の抑制を図り、廃棄物削減を目指し、省エネルギー・省資源に努める。
4. 塗料・シンナーなど、化学物質の管理及び使用削減に取り組む。
5. 電気使用量・ガス使用量の抑制、並びにエコドライブの促進に努め、CO₂排出量削減を図る。
6. 全従業員への教育により環境意識の高揚を図ると共に、環境保全活動を積極的に推進する。
7. 環境監査を実施して、環境管理の維持向上を図る。
8. 地域社会とのコミュニケーションを大切にし、地域のよりよい環境づくりに貢献する。

※ 全従業員とは・・・社員、パートナー会社、アルバイト、パート、契約社員などすべての者が対象

代表取締役専務

山田 真己

制 定 2019年 4月 1日

改訂日 2019年 9月 6日

□組織の概要

更新日：2020年5月25日

(1) 名称及び代表者名

大阪トヨタLOGI & B-TEC株式会社

代表取締役専務 山田 真己

(2) 所在地

本社・ラック工場・ロジスティック部：

大阪府 寝屋川市 仁和寺本町3丁目2番38号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役 藤木 秀一 TEL：072-828-1215

// 執行役員 松永 洋和 //

担当者 経営管理部長 井上 進 //

(4) 事業内容と規模

	新車整備部門 整備部 (ラック工場)	物流・輸送部門 ロジスティック部	経営管理部・ 整備部 営業・業務G (本社)	合計
売上高	4,253百万円	659百万円	-	4,913百万円
従業員数	49人	44人	16人	109人
屋内作業場面積	5,066㎡	-	-	-
主な事業内容	自動車整備、新車点検、用品取付、特装车製作、カーケア施工、板金塗装	新車・U-Car・BP各車 両配送、社内文書配送、部 品配送	-	-

2019年3月末に、BP事業（寝屋川BP工場・平野BP工場）は大阪トヨタ自動車株式会社に譲渡しております

※「BP」= 板金・塗装

(5) 事業年度

2019年4月1日～2020年3月31日

□認証・登録の対象組織・活動

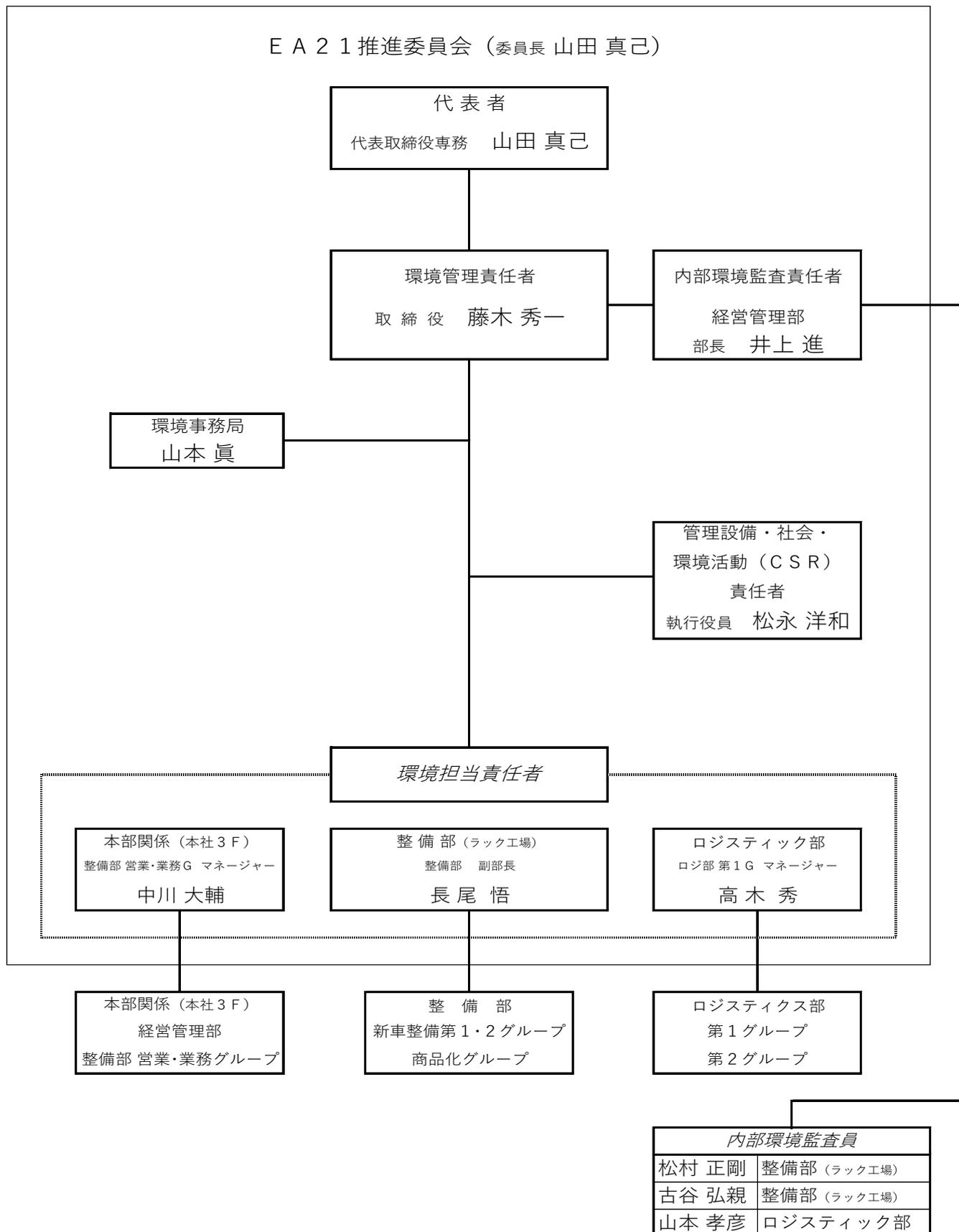
登録事業者名：大阪トヨタLOGI & B-TEC株式会社

対象事業所：本社・ラック工場

活動：新車整備、用品取付、特装车の製作、カーケア施工、U-Car商品化、車両配送

□実施体制図及び役割・責任・権限表

環境推進委員会組織表



担当	役割・責任・権限
代表者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境方針を策定する。 2. EMS実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備する。 3. 環境方針の定期的な見直し。 4. 代表者による全体の評価と見直しを実施する。 5. 環境体制組織及びEA21推進委員会組織の策定をする。 6. 環境管理責任者を任命する。 7. 環境活動レポートを承認する。
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表者が環境方針を策定するにあたり助言を行う。 2. 環境活動レポートの確認をする。 3. 本環境マニュアルと関連文書に定める環境管理責任者の承認事項に関わる承認を行う。 4. 担当部門の各環境担当責任者を管理監督する。
管理設備・社会・環境活動（CSR）責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生事案を、環境担当責任者から報告を受け、助言を行い速やかに環境管理責任者に報告、指示を仰ぐ。 2. 本環境マニュアルと関連文書に定める社会・環境活動（CSR）責任者、管理設備責任者の承認事項に関わる承認を行う。
環境担当責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックを行い、これらを基に環境目標及び環境活動計画を策定し、事務局経由で環境管理責任者へ提出する。 2. 自部門に関する環境活動計画の進捗状況を管理する。 3. 本環境マニュアルと関連文書に定める環境担当責任者としての役割、責任及び権限を行使する。 4. 日常の事業活動の中で環境対応に関する事項の運用、管理をする、並びにEMSの実績を事務局に提供する。
EA21推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. EA21推進委員会は、原則年1回開催する。 2. EA21推進委員会の開催は委員長または、環境管理責任者が招集する。 3. EA21推進委員会では、当社におけるEMSの構築、運用状況についての報告と審議並びに環境情報に関するコミュニケーションを行う。
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理責任者及び環境担当責任者にEMS見直しのための、情報の提供、及び円滑なEMSの構築と運用を図るため、サポートを行う。 2. EA21推進委員会の事務局 3. EMSの構築とその運用。 4. 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）。 5. 環境活動レポートの作成に必要な、データ、情報などを、各部から提供を受けまとめる。 6. 本環境マニュアルと関連文書に定める事務局の役割の行使および運営を行う。
内部環境監査責任者 （内部環境監査チーム 各部1名任命、計3名）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部監査責任者は環境に関する内部監査の計画を基本4月に行う。 2. 環境に関する内部監査の実施・報告を基本5月に行う。 3. 内部監査の結果に基づき改善項目の進捗状況を確認する。
全従業員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 2. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2018年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	1,138,656
廃棄物排出量	kg	440,418
一般廃棄物排出量	kg	75,855
産業廃棄物排出量	kg	364,563
総排水量	m ³	8,856

2019年度 環境活動 レポート	
二酸化炭素総排出量	728,015
廃棄物排出量	189,707
一般廃棄物排出量	65,017
産業廃棄物排出量	124,690
総排水量	8,009

※電力の二酸化炭素排出量換算値 **0.334 kg-CO2/kWh** (2018年 関電 調整後)

□環境目標及びその実績

項目	年度	2018年度	
		単位	(実績)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	564,681	
	基準年比	—	
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	189,557	
	基準年比	—	
自動車燃料（ガソリン）による二酸化炭素削減	kg-CO2	31,801	
	基準年比	—	
自動車燃料（軽油）による二酸化炭素削減	kg-CO2	352,617	
	基準年比	—	
上記、二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	1,138,656	

2019年度環境レポート		2020年度 (目標)
(仮目標・基準)	(実績)	
325,000	300,351 92%	321,000 99%
89,100	73,565 83%	88,000 99%
22,000	12,407 56%	12,000 (変更)
353,000	341,692 97%	349,000 99%
789,100	728,015	770,002

一般廃棄物の削減	kg	15,876	
	基準年比	—	
廃プラの削減	kg	285,718	
	基準年比	—	
水道水の削減	m ³	8,856	
	基準年比	—	
シンナー・塗料の使用量削減	kg	31,565	
	基準年比	—	
製品・サービスへの環境配慮	台	13,696	
	基準年比	—	

11,000	16,037 146%	15,800 (変更)
215,000	110,250 51%	109,000 (変更)
7,000	8,009 114%	6,900 99%
3,700	3,446 93%	3,660 99%
13,700	16,088 117%	14,000 102%

2019年度目標は、BP業務を大阪トヨタ自動車株式会社へ譲渡した寝屋川BP工場・平野BP工場を除いた数値で仮目標を立てました。実績との数値に大きな乖離がある項目については、目標値を新たに変更・設定し、2020年度に実施します。（数値の変動が小さい項目は、仮目標の1%減を目標とするよう設定）

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活 動：○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】 実績：300,351 kg-co2 (目標比：92%)
<長期目標 (担当：整備部 新車整備第1グループ)> 新車作業工程を見直し、特にラック棟 (自動車保管倉庫) への車両の出入庫回数の減に努める	△	エアコンの細かな温度調整は全員が意識を持てたが、電力消費のかかるラック棟への出し入れは繁忙時期に高い状況
・場内エアコン電力消費量削減	○	【次年度の取組】 新車工程管理システムを利用しての作業の見える化により、ラック棟からの車両出し入れを減らし、更なる電力消費減に努める
・空調温度の適正化 継続 (基本設定温度「冷房28°C・暖房20°C」)	△	
都市ガスによる二酸化炭素削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】 実績：73,565 kg-co2 (目標比：83%)
<長期目標 (担当：整備部 商品化グループ)> 塗装ブース点検整備と再塗装の低減	○	ブース温度設定 → 乾燥時 (70度40分)、温風塗装温度設定 (20度) を徹底管理した
		【次年度の取組】 塗装ブース機器点検による性能維持を継続
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】 実績(軽油)：341,692 kg-co2 (目標比：97%)
<長期目標 (担当：ロジスティック部)> 配送システムを利用した積載車配送効率向上の継続と積載車の順次代替を実施する	○	11月に低床車や幅広車に対応できる新型 (1台積み) を投入。配送システムにも慣れ満車率は高い数値をキープした
・空荷での配送減少と回転数の適正化を図る	○	【次年度の取組】 新型積載車を2台代替予定 (10・1月) 更なる配送効率を図る
一般廃棄物の削減		
数値目標	×	【取組結果と評価】 実績：16,037 kg (目標比：146%)
<長期目標 (担当：本部関係[本社3F])> 5S活動の推進、分別の徹底、シュレッダー廃紙のリサイクル化	△	ペーパーレスによる作業へ変更 → システム化やスキャナー等のITツールを活用する
・FAXや紙での作業指示などの見直しによる紙総量減と廃紙の分別徹底会議体をペーパーレス化へ	△	【次年度の取組】 現状取組継続と新車工程管理システム活用によるペーパーレス化へ
廃プラの削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】 実績：110,250 kg (目標比：51%)
<長期目標 (担当：本部関係[本社3F])> 分別の徹底	○	目標値との差異は大きく、BP部門での移管により約半分の実績となった。今年度は目標数値を見直す。
・車両の廃棄シートをプラと金属に完全分別し処分、トヨタ製バンパーは再利用できるよう分別廃棄の実施	○	【次年度の取組】 現状取組継続
水道水使用の削減		
数値目標	×	【取組結果と評価】 実績：8,009m ³ (目標比：114%)
<長期目標 (担当：整備部 新車整備第1グループ)> 連続洗車機の水リサイクル期間の適正化	○	冬季期間に地中での水漏れが発覚し、漏れ箇所発見・修繕に3ヶ月を要し、止水が遅れた事もあり計画を超過 (3月修繕完了)
・連続洗車機の循環水⇒清水 (せいすい：上水) 切り替え頻度の適正化を勧案する	○	【次年度の取組】 現状取組継続
シンナー・塗料の使用量削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】 実績：3,446kg (目標比：93%)
<長期目標 (担当：整備部 商品化グループ)> 有害性物質の表示徹底、基本作業動作を徹底 (容器蓋の徹底 等)	○	B P事業 (B P工場) を譲渡し、塗料の使用量は減少。U-C a r商品化については作業量が少ない為、溶剤塗料を継続使用
・有害物の少ない新製品に切り替え実施	×	【次年度の取組】 現状取組継続

<次頁に続く>

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
製品・サービスへの環境配慮		
数値目標	○	【取組結果と評価】 全体実績達成率：117%
・HV・PHV車両紹介	○	ガラスフィルムは、クラウンリコールによる貼り替え作業が増加。また独自イベントにより施工台数アップも図られた
・新車／ボデーコート	○	
・新車／ガラスフィルム	○	【次年度の取組】
・既販車／ボデーコート	×	現状取組継続と各店舗での拡販イベント企画立案
・既販車／ガラスフィルム	○	
社会貢献		
数値目標	○	【取組結果と評価】
・事業場周辺道路の清掃	○	社会貢献活動に参加 [P11「環境活動等の紹介」参照] (屋外での作業では事故ケガに十分に気をつけ活動する)
・河川敷の清掃活動参加 (大阪府・寝屋川市)	○	
・献血活動 ・納涼盆踊りうちわ寄付	○	
・ペットボトルキャップ回収・寄付	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項 (施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物 (金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等)
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機
消防法 (危険物)	危険物庫、少量危険物庫、泡消化液 (P F O S)
消防法 (設備)	消防設備、自家給油所
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機、エアドライヤー、ウォータークーラー、スポットクーラー
労働安全衛生法	有機溶剤作業、粉塵作業、騒音作業、砥石交換、クレーン運転、フォークリフト運転、溶接作業、電動ウインチ操作、乾燥設備、健康診断、塗装作業場環境測定
P R T R法	塗料・シンナー・溶剤等化学物質の取扱量
労働基準法	従業員の雇用、就業規則
省エネ法	建物、設備の改修・建替え
水質汚濁防止法	洗車機、洗車場、油水分離槽、排水水質検査
N O x ・ P M法	排ガス基準適合車の使用
道路運送車両法	整備工場

▽ 環境関連法規制等の遵守状況評価の結果、環境関連法規制等は遵守されています。なお、違反、訴訟等は過去3年間 (あるいはこれまで) ありません。

▽ 2019年3月をもってBP事業は、大阪トヨタ自動車へ譲渡し (新工場立ち上げを機にサービス部門一元化による生産性向上を図るため)、当期4月以降「塗料・シンナー」を取り扱う事業は、U-C a r商品化 (中古車の化粧直し) がメインとなり、化学物質の取り扱い量が大幅に減少しております。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定：ハローラック2階 U-C a r 商品化 調色室前からの火災発生

■実施日：2019年12月16日（月）

■実施場所：ハローラック（本社・ラック工場）

■参加者：180人

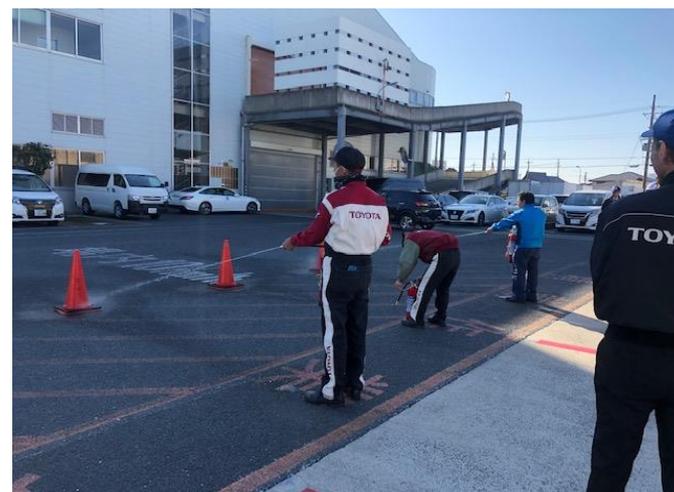
■実施内容：総合訓練（通報、消火、避難）

■評価：

初期消火・通報への対応、大声での避難誘導、避難場所への迅速な集合と点呼がスムーズにできた
 「○」（避難放送から点呼終了まで昨年同様 約7分）

「○」

■実施状況の様子



□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2020年5月25日

管理責任者の報告及び改善への提案	代表者のコメント												
<p>[環境指標の達成状況]</p> <p>【二酸化炭素排出量 (CO2)】</p> <p>2019年度 実績：728,015kg-CO2 (前年比：63%)</p> <p>→ 電気・ガス・自動車燃料等のCO2削減取組の総合値</p> <p>→ 前年対比では、B P 事業譲渡で大幅に減少。今後も、整備部では、自動車保管倉庫の車両の出入れ回数減少等に取り組み、ロジ部では効率的な配送計画の実施を行う。</p>	<p>変更の必要性：<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p> <p>二酸化炭素排出、化学物質排出量において、電気・ガスの削減取組みは、各部署が意識を持って実施・継続する。今後については、新たに設定した環境目標をクリアできるように真摯に取組みCO2削減に努める。また、既存の「車両配送システム」と新たに導入する「新車工程管理システム」でライン工程の見える化を図り、効率的配送を推進し進め原価低減を図る。</p>												
<p>[環境取組の達成度と課題、今後の活動予定]</p> <p>【化学物質使用量削減】</p> <p>当工場における塗装は溶剤を使用</p> <p>→ パテ・シンナー等は環境負荷の低い製品を継続し使用する。</p>	<p>変更の必要性：<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p> <p>ブース・塗料などの使用利用時は、適正かつ安全に考慮し取り扱うこととする。</p>												
<p>[法規制の変更と遵守状況]</p> <p>法令順守評価に基づき毎月実施し、外部検査機関による環境・水質検査を実施、各項目において基準値以内で問題はありませんでした。</p> <table border="1" data-bbox="172 1146 715 1272"> <thead> <tr> <th>法令遵守確認</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月・11月塗装作業場の環境測定実施</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>11月 工場排水水質測定実施</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	法令遵守確認	結果	5月・11月塗装作業場の環境測定実施	○	11月 工場排水水質測定実施	○	<p>変更の必要性：<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p> <p>法令関係・条例の改正や、その他の要求事項対応を確実に実施し、各部署へ必ず情報伝達する。また「安全」を念頭に社員一人ひとりが日々の業務を丁寧に遂行すること。</p>						
法令遵守確認	結果												
5月・11月塗装作業場の環境測定実施	○												
11月 工場排水水質測定実施	○												
<p>[内部監査の結果と是正状況]</p> <p>【内部環境監査結果】</p> <p>▽ 実施日：2019年7月22日</p> <table border="1" data-bbox="162 1469 644 1630"> <thead> <tr> <th></th> <th>重大な不適合</th> <th>軽微な不適合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>整備部</td> <td>無し</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>ロジスティック部</td> <td>無し</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>本社関係 (3F事務所)</td> <td>無し</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 各部からの是正報告有り</p>		重大な不適合	軽微な不適合	整備部	無し	4件	ロジスティック部	無し	3件	本社関係 (3F事務所)	無し	1件	<p>変更の必要性：<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p> <p>毎月開催の環境報告ミーティングで、内部環境監査のチェック項目をランダムに聞き取り状況を確認する。また指摘事項への対応と是正の有効性と定着状況を確認継続すること。</p>
	重大な不適合	軽微な不適合											
整備部	無し	4件											
ロジスティック部	無し	3件											
本社関係 (3F事務所)	無し	1件											
<p>[外部からの苦情と対応]</p> <p>苦情等の連絡は無し。定期的実施しております近隣訪問においても苦情はありませんでした。</p>	<p>変更の必要性：<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p> <p>定期的な近隣住民への自宅訪問活動を継続し、コミュニケーションの継続も図ること。</p>												
<p>[総括]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の安全宣言が待たれる中、より一層の「働き方変革」が求められる事となります。「安全」は全てに優先します。手洗いの励行・消毒の実施・ソーシャルディスタンスの徹底等、感染拡大防止対策を講じながら、従業員が一丸となってエコアクション21の推進活動を行います。</p>													

□環境活動等の紹介

▽ 事業場周辺道路の清掃（月2回）



▽ 団体献血実施（実施日：2019年8月8日）参加人数：27人



▽ 町内納涼盆踊りうちわ寄付（500枚／3社共同）



▽ クリーンリバー寝屋川作戦（活動日：2019年11月17日）



▽ 淀川河川敷の清掃活動（活動日：2020年2月9日）

